

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

1 市川市立稲荷木小学校について

児童数は、404名（男子児童204名、女子児童200名）で、学級数は、各学年2学級の12学級に特別支援学級（難聴）の2学級を加えた14学級で構成されている。学校教育目標は、「やさしく かしこく たくましく～自立できる子の育成」で、児童の道徳的な感性を育てることを第一意義にあげているため、知徳体ではなく、「徳知体」の順に目標を定めている。

2 研究主題

基礎的・基本的な学習の確実な定着とわかる授業の実践をめざして

3 学力向上のための取組と成果について

国語科、算数科ともに基礎・基本の定着が課題である。基礎・基本の確実な定着を図るためには、落ち着いて授業に取り組むなどの授業規律を徹底すること、朝学習や家庭学習を充実させ、繰り返し学習する機会を設けることが必要であると考え、今年度は、以下のことについて重点的に取り組んだ。

○ 中学校ブロックでの連携 ○ 国語科、算数科における授業改善

義務教育9年間を見通した学習の習慣づけをねらい、中学校ブロックで協力して「授業の約束」や「あたりまえだけど大切なこと」を作成し、教室に掲示して児童に声かけをするなど学習規律を整え、話をしっかり聞く態度の育成を図り、授業時間や学習時間の効率化に取り組んだ。

また、これまで本校で使用してきた家庭学習リーフレット「家庭学習のすすめ」を、中学校ブロックで共通して使えるように統一したものに改善し、生活習慣や学習習慣の目標と各学年の平均的な児童の実態を示し、家庭学習を行う上で必要なことや留意すべきことなどを記して家庭で学習を行う際の指針とした。

教職員の授業改善については、一人一授業による校内授業研究会に加え、板書の仕方やノート指導などを、若年層教員や異動してきた教職員でもすぐに活用できるようにまとめ、校内研修を積極的に行い授業力の向上を図った。また、各単元の学習の中で、発表、観察、記録等の活動を意図的に取り入れ、言語活動の充実を図ることで児童が目的意識を持って学習に取り組むことができるようにグループ学習や比較検討の時間を授業の中に盛り込んでいくようにした。

学力向上へ向けた取組の評価として、年二回、家庭や児童に向けた学校生活アンケートを実施し、集計したものを教職員に周知し、さらなる改善を図っている。

加配教員については、国語科・算数科を中心に、少人数指導、習熟度別指導、ティーム・ティーチング、学習のコーディネート等の指導方法の工夫改善を図っている。中学年以上の算数科の指導において、全ての学級できめ細かな指導を行うことができている。全国学力・学習状況調査においても、算数科では安定した成果を残すことができている。

また、放課後の補習の取組である「校内塾・まなびくらぶ」においても、学習サポーターを活用することで、児童のつまずきの傾向を早めに把握し、指導にあたることができている。